

令和2年度 輪之内町立福東小学校 学校評価書

学校の教育目標	<b>豊かな心 たくましい力のある子</b> <b>明日も行きたい 行かせたい 楽しい学校</b>
経営の重点	

評価基準 A(3ポイント)：実践し、効果をあげることができた。  
 B(2ポイント)：実践し、一応の効果をあげることができた。  
 C(1ポイント)：実践し、僅かだが効果をあげることができた。  
 D(0ポイント)：実践したが、効果をあげることができなかった。

町の重点	評価の窓	教員評価ポイント	評価	今年度の成果	来年度への改善策
【学校経営】 全教職員が協力して活力ある学校経営をする。	勤務の適正化と教職員が健康でやりがいをもてる経営	90	A	・学年部で協力して行事や教材研究を行い、効率よく仕事を進めている。 ・新型コロナウイルス感染症予防対策や、それを踏まえた児童の生活や活動などを、全職員で共通理解をし、協力して確実に行うことができた。 ・19時退校や8の付く日、水曜日は18時退校を意識し、勤務時間の短縮に努めた。	・18時や19時に退勤する、月45時間を超えないことを意識して勤務する。早く帰ることでリフレッシュして、明るく健康に過ごせるようにする。 ・家に持ち帰って行う仕事が多くなっているため、優先順位をつけて計画的に仕事を進めるようにする。 ・超過勤務になっている原因を明らかにして、管理職が助言をしたり学校全体で、仕事の分担や協力をする。
【研修】 自己の課題を明確にし、主体的に研修を進め、確かな指導力を身に付ける。	学校教育目標実現に向けて資質向上を図り、組織的・継続的な研修の実施	76	B	・研修を定期的に設けることで、パソコン・ICT活用・コロナ予防対策など時事に応じた研修ができた。 ・研修に対して、職員が前向きに取り組み、一人一人の資質向上につながった。 ・研究主題をふまえた校内研究会を連続して行い、授業の実践や研究討議、講師の指導から成果と課題が明らかになり、来年度への見通しがもてた。	・現職研修の計画に沿って、校務分掌のそれぞれの担当者からの研修を位置づけることで多様な研修を行うようにする。 ・校内研究を通して、明らかにしたことや合わせて進めていくことを明確にして、取り組むようにする。
【教科指導】 基礎的・基本的な知識・技能の習得を図るとともに、思考力・判断力・表現力及び自ら学ぶ意欲や態度を育て、学力向上を推進する。	主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善	73	B	・校内研究会での実践や学習委員会からの「つなぎ発言」など月目標への全校での取組や指導を通して、児童の「話すこと」のレベルを高めることができた。 ・スキルタイムや対話タイムの取組で、児童は交流の楽しさを味わい交流への意欲が高まった。また、授業でのペアや少人数での交流が高まり、仲間との学びが深まりつつある。 ・学習意欲を高める課題までの導入を大切にしたり、深い学びをめざした「深め」の在り方を工夫したりするなど、授業改善の視点が明確になった。	・単元を貫く課題や児童につけたい力を明確にして、対話を取り入れた学習活動を工夫する。 ・授業の導入で、前時との違いや本時の課題を明確にする指導をどの時間にも位置づける。 ・交流活動や深めの活動、発問の工夫を図り、児童の学習への意欲や学びを深める。 ・朝のスキルタイムや言葉タイムに、児童がより楽しく主体的に取り組めるように、内容や方法を工夫する。
【道徳教育】 自己を見つめる力と他を思いやる心を育てる。	生き方についての考えを深める特別の教科道徳の充実	70	B	・道徳の授業で、考えたことや行動の理由を話し合ったり自己を見つめ直す機会をもたせたりすることを大切にしている。 ・道徳で学んだことを、帰りの会の「かがやきみつけ」や教師の話とつなげて評価したり価値づけたりした。	・教科の時間や児童会や学級活動で、道徳の授業で考えたり学んだりした道徳的な価値づけを大切にする。 ・児童の活発な話し合いとなるように、教材研究を深め、発問や話し合いの仕方を工夫する。
【外国語教育】 外国語に慣れ親しみ、コミュニケーション能力を高める。	主体的にコミュニケーションを図る姿が具現される指導方法等の工夫	67	B	・児童は、言葉や会話を積極的に練習し、英語でのコミュニケーションを図ろうとしたり、ゲームを楽しんだりすることができた。 ・ALTと講師、担任の役割分担を明確にし、どの児童も理解できるように繰り返し粘り強く指導をした。	・ALTとの打ち合わせで、児童の実態を大切にしたり授業での時間配分や活動を検討する。
【総合的な学習の時間】 探究的な学習を通して、よりよく問題を解決する資質・能力を育てる。	「ふるさと輪之内」に学ぶ態度と輪之内を愛し誇りに思う心を育成する探究活動の充実	67	B	・出前授業や輪之内町の校外学習を、できるかぎりで行った。 ・地域の題材を取り扱うことができなかったため、タブレットを活用してインターネットで調べる活動が中心となった。 ・高学年では、タブレットを活用して調べたことなどをまとめ、下学年に向けて発表することができた。	・これまでと同じテーマの中でも、一人一人が課題に向かって追究していける学習活動を工夫する。 ・学年に応じたタブレットを活用した活動や発表の仕方を工夫する。 ・わかりやすく伝えるために、見通しをもって調べたりまとめたことを工夫して表現したりする力をつける。
【特別活動】 所属感を高め、よりよい生活や望ましい人間関係を築こうとする自主的、実践的な態度を育てる。	望ましい人間関係や学級集団としてのまとまりを育てる学級経営の充実（QU検査の活用）	73	B	・生活ノートや教育相談を生かして児童の悩みや心配によりそうすることができた。 ・委員会のキャンペーンや呼びかけ、放送での結果報告などを通して学校や学級の一人一人としての意識を高めた。 ・QUの研修を通して、児童の姿を共通理解して指導した。 ・帰りの会の「輝き見つけ」で、仲間のよさを目を向けることと自分の成長をペアに伝え合うことを継続し、自分のよさに気づける機会を大切にしている。	・児童との教育相談の順番などに配慮し、確実に相談を行う。 ・学級あそび等での問題点を自分たちで解決していける力をつけるために、児童に考えさせたり、教師からの働きかけや支援を工夫したりする。 ・「5つの伝統」について、取組む委員会や時期を明確にするなどして、児童の活動としてを引き継いでいくことを大切にする。
【生徒指導】 共感的な児童生徒理解に徹し、よりよい人間関係の形成を図り、自己指導能力を育てる。	児童生徒理解の深化を図り、教職員と児童生徒との信頼関係の構築	85	A	・学級担任、生徒指導、管理職が一体となり児童の問題の早期対応や解決を図った。 ・教育相談担当の働きかけで「にこにこアンケート」を確実に実施し、教育相談に生かすことができた。 ・どの学級でも、児童の願いや思いを受けとめ、児童の安心や楽しさにつながるように、話を聞いたり共に活動したりすることができた。 ・教育相談だけでなく、休み時間の様子や授業での頑張りや目を向け、一人一人のよさを価値づけ、児童が自分のよさを自覚できるように支援を続けた。	・自己解決能力を伸ばす取組を意図的に行う。 ・「心のアンケート」から、具体的な内容や児童の思いを確実につかんで、指導に生かすとともに、生活の中での言動を具体的に指導する。また、「心のアンケート」に表れない児童の悩みにも目を向ける。
【キャリア教育】 社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる資質・能力を育てる。	勤労観・職業観を育成する体験活動の位置づけと事前・事後指導の充実	67	B	・児童に必要な生活の技能を身につけられるように指導した。 ・一人一役の係を位置づけ、自分が役に立つことや人のために働くことのよさを実感できるように努めた。 ・異学年での交流は少なかったが、「福っこ掃除」では、いつも以上に一生懸命働くことができた。	・多種多様な職業があることや、どのような社会への働きがあるかなどを学ぶために、職業に関する本を活用する。 ・掃除、係活動、委員会活動等一人一人の役割を設け、働くことの喜びや大切さを味わえるようにする。 ・遊びや掃除、給食など異学年での活動を大切にする。 ・地域とふれ合ったり地域から学んだりする体験活動を位置づける。
【健康安全教育】 運動に親しみ、進んで健康で安全な生活を営む態度を育てる。	自ら命を守りきる防災意識を向上させるための指導方法や指導体制の工夫改善	77	B	・コロナ感染症予防対策を踏まえた「命を守る訓練」を計画通り実施し、自分の命を自分で守ることの大切さをくり返し指導することができた。 ・洪水から身を守る、垂直避難訓練を行うことができた。 ・社会科でハザードマップを扱う単元が新しく入り、児童は、日常生活の中での防災について学んだ。 ・新型コロナウイルス感染症予防のために気をつけることややるべきことについて、その理由と共に指導をし、徹底をした。	・ZOOMを用いた活動を工夫する。 ・いろいろな状況や場面を想定した「命を守る訓練」を工夫して行う。 ・新型コロナウイルス感染症予防対策を、緊張感をもって継続するとともに、その意味や理由についても学年に応じた指導を繰り返すことで、自分を守り、他を大切にできる力を育てる。
【特別支援教育】 一人一人の教育的ニーズに応じ、自立した社会参加するための基盤となる力を育てる。	特別支援教育コーディネーターを中心とした校内支援体制づくりと合理的配慮の構築	83	A	・個別に指導するなど児童の実態に応じた支援をしたことで、落ち着きや意欲を高めることができた。 ・支援員と協力して、児童に寄り添い学習や活動を進めていくことができた。 ・就学指導については、教育委員会や特別支援学校とも連携をはかり、保護者の理解を図ることができた。 ・通常学級での配慮の必要な児童に対して、子どもの実態に合わせた配慮や支援をした。	・家庭と連絡をとりあって、生活に必要な技術をさらに身につけられるようにする。 ・通級指導教室や特別支援学級を勧めるにあたっては、早い段階から、保護者に働きかけるようにする。 ・通常学級の中の支援の必要な児童については、情報交流を早めに行い、適切な支援を検討して実行する。
【人権教育】 自他の大切さを認め、互いに人権を尊重する望ましい人間関係を醸成する。	児童生徒と全教職員が一体となったいじめや差別を許さない学校・学級づくり	91	A	・各学級で「かがやきみつけ」を行ったりひびきあい集会に向けての「キャンペーン」に全校で前向きに取り組んだりしたことで、互いを思い合うことや差別を生まないことを大切に指導した。 ・「いじめ0宣言」を位置づけ下校時に唱和することで、児童の意識を高めることができた。 ・「ひびきあいの日」に向けて、児童が主体的に取り組めるよう計画委員会を中心とした活動を意図的に仕組むことができた。	・仲間のよさやがんばりと共に、自分のよさやがんばりに気づける活動や働きかけを工夫することで、自分への自信を高めることができるようにする。 ・「いじめゼロ宣言」に関わって、自分たちの生活を振り返る機会をもち、意識を高める。
【ICT教育】 児童生徒の情報モラルを高め、情報社会に対応できる情報活用能力を育てる。	ICTを有効活用した学習活動の充実	85	A	・デジタル教科書の活用とともに、タブレットの写真・動画機能や書き込みの機能を学習や活動に生かす。 ・児童用タブレットを活用し、意見交換を行うことができた。 ・タブレットやインターネットを主体的に活用しようとする児童が増え、ICTに関わる技能が向上した。 ・一人一台タブレットがあることで、リモート機能を活用した授業や総合的な学習の発表に活用することができた。 ・新型コロナウイルス感染症予防対策のため集会活動などが制限される中、適宜、リモート機能を活用して、交流を図ることができた。	・ICTの活用や児童に身に付けさせる技能などについて、年間指導計画を明確にし、確実に指導する。 ・ICT機器を生かした授業のあり方について工夫改善する。 ・ICT機器の効果的な活用について、計画的に研修や交流の機会をもつ。
<b>【学校関係者評価】</b> ・新型コロナウイルス感染予防について、全職員や家庭が協力して確実に対策を行っている。今後も、必要に応じて継続したり見直したりしていくことが大切である。 ・一人一台のタブレットについては、児童の実態や家庭の状況を大切に、児童の学習や活動にプラスになる活用の仕方を工夫する必要がある。また、教職員の研修を計画的に行い意欲や技能を高める。 ・児童のランドセルが大変重くなっている。今後、タブレットも持ち帰るにあたっては、児童の持ち物について検討が必要である。 ・「働き方改革」については、全教職員の意識が高まっているといえる。 ・読書に親しむことについて、学校では授業「読書の時間」「図書館祭り」「ビブリオバトル」などいろいろな活動がなされている。家庭にもその活動を伝えるなどして、啓発を図る。 ・「いじめ」については、今後も早期発見・早期対応・解決を図るとともに、「いじめ」や差別を生まない児童への心の教育を大切にする。 ・コロナ禍の中ではあるが、地域の学習や地域の人との関わりなど、活動の仕方を工夫して大切にしたい。					